

|         |                                    |        |           |
|---------|------------------------------------|--------|-----------|
| 開講年度・学期 | 2017年度・前期                          | 授業形態   | 講義        |
| 科目名     | 国際組織法                              | 科目ナンバー | JAINT2202 |
| 英語表記    | Law of International Organizations | 担当教員   | 桐山 孝信     |
| 単位数     | 4                                  |        |           |

### 科目の主題

国際連合を中心とした国際組織の構造と機能の探求

### 授業の到達目標

本講義では、「平和・人権・開発」をキーワードにして、国連を中心とした国際組織がこうした課題にどのように対処しようとしてきたかを理解し、国際組織の活動が生み出してきた規範が今後の国際社会の諸問題を解決するためにどのように利用できるかを考えることができるようになることを到達目標とする。

### 授業内容・授業計画

グローバル化が進展する中で、それを推進するにせよ規制するにせよ、国際組織とりわけ国際連合の役割は無視することができなくなっている。他方で、国際組織の活動は人間生活のあらゆる場面に関わっている。授業では、そういった活動のなかから、以下のように平和・人権・開発に関わる活動を中心にして考察し、受講生とともに今後の国際組織のあり方・役割について考える。

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション：講義の進め方・成績評価の仕方など |
| 第2回  | グローバル化の進展と国際組織の役割：総論的考察    |
| 第3回  | 平和の課題：勢力均衡から集団安全保障へ        |
| 第4回  | 国際連盟の成立                    |
| 第5回  | 国際連盟の実践                    |
| 第6回  | 国際連盟の失敗と第二次世界大戦            |
| 第7回  | 国際連合システムの成立                |
| 第8回  | 戦争違法化の深化                   |
| 第9回  | 紛争の平和的解決義務の展開              |
| 第10回 | 集団的強制措置の構造                 |
| 第11回 | 冷戦と集団安全保障体制の機能麻痺           |
| 第12回 | 平和維持活動（PKO）の「発見」と「発展」      |
| 第13回 | 転回点としての「湾岸戦争」              |
| 第14回 | グローバル化時代の安全保障              |
| 第15回 | グローバル化時代のPKO               |
| 第16回 | 保護する責任と人間の安全保障             |
| 第17回 | 人権の課題：国内問題から国際問題へ          |
| 第18回 | 国際組織と人権問題                  |
| 第19回 | 自決権と国際組織                   |

|   |                |
|---|----------------|
| 第 20 回  | 自決権の定着         |
| 第 21 回  | グローバル化時代の自決権   |
| 第 22 回  | 人権条約による実施措置    |
| 第 23 回  | 人権条約によらない実施措置  |
| 第 24 回  | グローバル化時代と人権理事会 |
| 第 25 回  | 経済協力の国際的枠組     |
| 第 26 回  | 国際連合と専門機関      |
| 第 27 回  | 南北問題と開発        |
| 第 28 回  | 南北問題の終焉と開発     |
| 第 29 回  | 表裏一体としての開発と環境  |
| 第 30 回  | グローバル化時代の開発問題  |
| <b>事前・事後学習の内容</b>   |                |
| 各回に、次回の講義について予告するので、教科書の指定ページ等を読んで事前学習を行うこと、また、講義終了後は次回までに講義ノートおよび教科書の該当ページを復習しておくこと。     |                |
| <b>評価方法</b>   |                |
| 成績評価は期末試験の結果による。また遅刻は厳禁であり、減点対象となりうる。   |                |
| <b>受講生へのコメント</b>  |                |
| 新聞やテレビ等メディアで取り上げられる国際問題について、国際法や国際組織の立場から説明を加えながら講義を進めていくつもりにしているので、日々の国際問題に関心を払うことを希望する。 |                |
| <b>教材</b>   |                |
| 教科書：家正治・小畑郁・桐山孝信編『国際機構(第4版)』世界思想社、2009年   |                |
| <b>その他</b>  |                |
| <b>履修可能最低年次</b>   |                |
| 2年次生以上  |                |